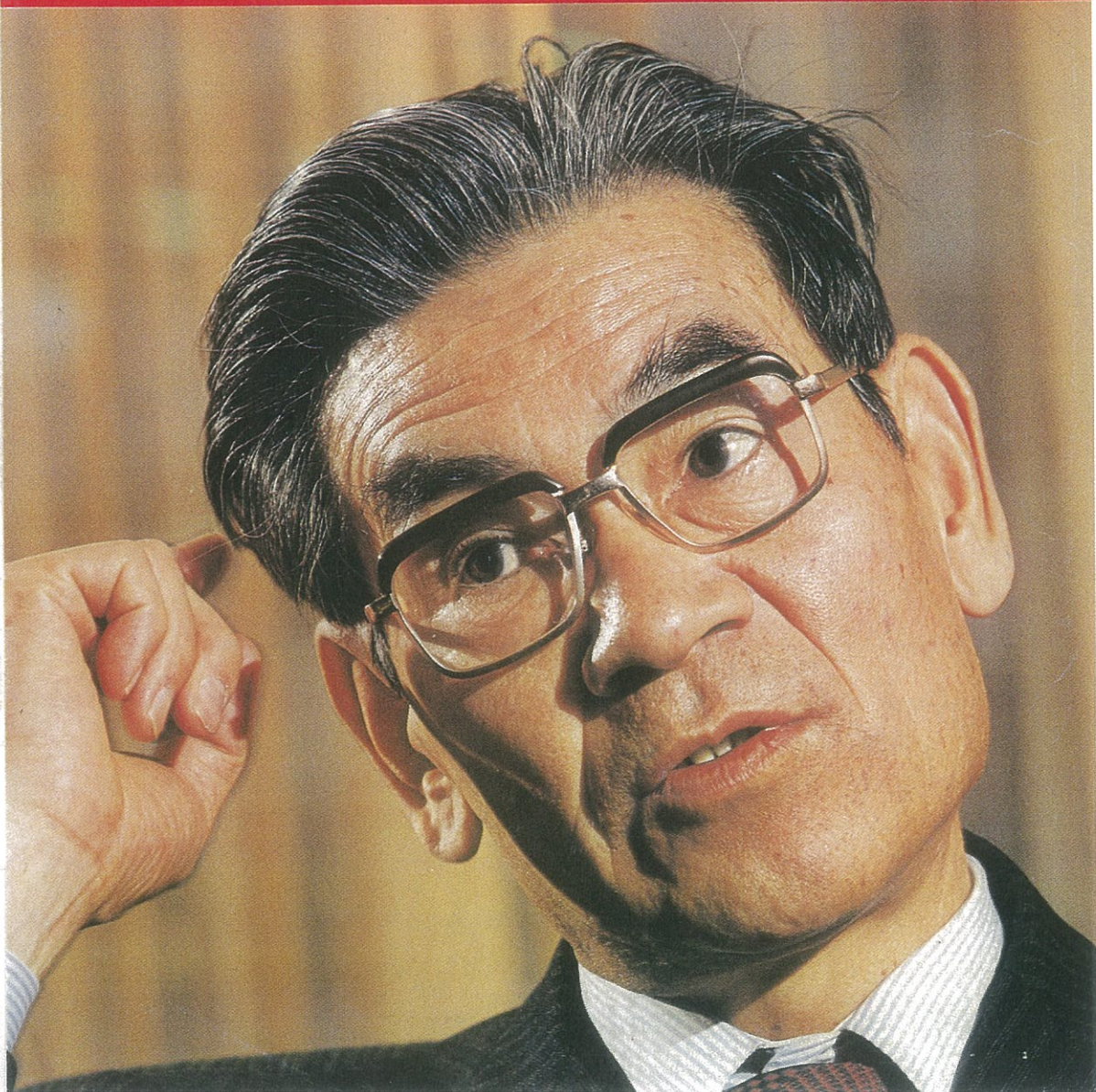


週刊 **東洋経済**

1-31  
特大号

**備えは  
万全か** **企業の地震対策**

人質解放後の中東情勢 / 眞藤恒 電電新総裁の研究  
松下-カギ握るVディスク戦略 / ニコン神話復活の日  
中国-知られざる新経済調整派の素顔



目次  
1-31  
特大号  
備えは万全か 企業の地震対策  
人質解放後の中東情勢 / 眞藤恒 電電新総裁の研究  
松下-カギ握るVディスク戦略 / ニコン神話復活の日  
中国-知られざる新経済調整派の素顔



文蔵、幣原喜重郎、吉田茂に對して、マッカーサーとGHQ、戦後日本の支配者たちの「治者の哲学」も考察されている。

著者は戦後の保守本流の構築者・吉田茂は良くも悪くも大久

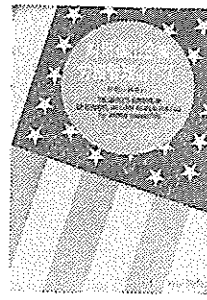
## 米企業の就業規則の実例研究

### 『対米進出企業の労務管理のすべて』

——採用から解雇まで

トーマス・J・ネビンス 著

島田 晴雄 監修



この本は、現在アメリカ国内企業で実施されている会社規則（日本の就業規則に準ずる）を紹介したものである。

序論でアメリカの労働組合についての簡潔な説明を試み、第一章で会社規則の必要性を説き第二章では規則の各項目を詳細に列記し、数種のモデル文例も添え、必要に応じて解説を加えたものである。

さて、日本企業が対米進出しようとするとき常に問題視され

保利通を彷彿させると書いているのは印象的だ。

著者独特の鋭い切り込みをなお期待したい点もあるが、面白い読物である。

（文藝春秋 一三〇〇円）

例えば、企業に對して前述のような差別をさせないために雇用機会均等法があり、求職申込書に性別、年齢、両親の姓名、婚姻関係、子供の数、写真、身長と体重、身体上の障害、生年月日、出身地、身体上の特徴などを書き込む様式さえ不適当とされている。また、企業所在地の人口別分布に沿った比率でマイノリティ・グループといわれる非白人種をも雇用しなければならぬのである。

るのは、アメリカにおける労働関係の悪さと従業員の高賃金である。

多民族、多言語、多宗教といった複雑な生活基盤が入り交じるアメリカでは、使用者と労働者は常に対立関係にあるものと観念されており、加えて職能別組合という事情もあって、会社の経営状態について従業員は関心を持たないのが普通だ。そのため使用者は絶えず労働者を律し、労働者は常に自分たちの権利を主張してやまない。

そこに連邦および州政府が人種、宗教、年齢、性別などによる従業員差別を禁じる規則を企業に押し付けてくるから、使用者は政府と従業員の双方から

つけ込まれないために、完璧に近い会社規則を作る必要が生じてくる。

このほか身障者の雇用義務、従業員の兵役と陪審義務に対する配慮などのほか、日本の就業規則などに比べて想像を超える項目が要求されてくる。例えば社内賭博、悪ふざけ、盗み、飲酒、喧嘩などを麗々しく禁じている日本の就業規則はちよっとお目にかかれない。が、アメリカのように明示された規則以外は許されるという認識が一般的な国では、こういう当たり前のこともきちんと明示しておかねばならぬのである。

この本はこのようなアメリカの事情を明らかにするために、

■Vブックス「企業研究シリーズ」の第三弾『日立製作所の研究——技術立国時代のトップランナー——』（野村総合研究所編・九八〇円）が発売されました。エレクトロニクスを先兵に、重電・家電を総合したマンモス電機企業の内容を最新データで描き出しながら、多面的な技術開発に取り組み現場の表情を生き生きと伝えていきます。既

■多方面から好評をいただいている『基礎社会学』（安田三郎・塩原勉・富永健一・吉田民人共同編集、全五巻、A5判）の第一巻『社会的行為』（二九〇〇円）に続き、

『日産自動車の研究』も重版が出版されました。

第三巻『社会集団』（二九〇〇円）が発刊されました。小集団、官僚制、経営組織、ヴォランティアリズム、自治組織など、今日のテーマにも社会学が的確に回答します。

『三菱商事の研究』

組織の近代理論に関心あるすべての読者に一読をお勧めします。

『日産自動車の研究』

■田辺孝則『鉄鋼業』（新産業シリーズ、B6判・一一〇〇円）が発売中です。本書は、

『日産自動車の研究』

高収益期を迎えた鉄鋼業に与っての課題と戦略をさぐったものです。

『日産自動車の研究』

昨年六月から刊行され好評発売中の「新産業シリーズ」全二〇巻も、本書をもって完結です。八〇年代は産業・企業にとって「変身の時代」ですが、このシリーズは、変身の機軸を大胆に展望したものです。ご一読ください。

『日産自動車の研究』

研究者・消費者の知識整理に格好の書といえましょう。

『日産自動車の研究』

『日産自動車の研究』

『日産自動車の研究』

『日産自動車の研究』

『日産自動車の研究』

『日産自動車の研究』

『日産自動車の研究』

『日産自動車の研究』

『日産自動車の研究』

『日産自動車の研究』

『日産自動車の研究』

